

## 中国サービス産業研究の到達点と サービス・マネジメント研究への展望

鄭吉昌・夏晴共著『サービス業・サービス貿易及び地域競争力』  
への検討を中心に

### Perspective of Service Economy and Review of Service Management in China

宮内拓智

#### 【要旨】

近年、経済発展が目覚ましい中国経済においても、経済のサービス化が進展している。中国の社会科学は「政策科学アプローチ」として、研究の理論的・実証的成果や到達点は、国家ないしは公権力が総括しており、中国におけるサービス業及びサービス・マネジメント研究の到達点を明らかにして、今後の課題を探っていく場合、地方政府の政策立案と深い関係のある文献が研究対象として適切である。今回、中国サービス産業研究の到達点と今後の展望を考察するに際して、国家第十次五カ年計画重点図書等として高く評価されている、鄭吉昌・夏晴共著『サービス業・サービス貿易及び地域競争力—浙江モデルの実証的研究—（浙江大学出版、2004年9月）』を検討素材とし、今後のサービス・マネジメント研究の課題を提起するとともに、発展の方向性を示した。

【キーワード】 ①サービス (Service)、②サービス産業 (Service Business)、③サービス貿易 (Service Trade)、④サービス・マネジメント (Service Management)、⑤サービス・マーケティング (Service Marketing)、⑥浙江モデル (Zhejiang model)

#### はじめに

近年、経済発展が目覚ましい中国経済においても、経済のサービス化が進展している。「社会主義市場経済」として、「市場経済」の要素を有するとともに、「計画経済的要素」をも有する中国国民経済

において、中国政府は、サービス産業の適切な発展を政策的にリードしていかねばならない<sup>(注1)</sup>。また、中国の社会科学は「政策科学アプローチ」として、研究の理論的・実証的成果や到達点は、国家ないしは公権力が総括することとなる<sup>(注2)</sup>。したがって、中国における社会科学研究の成果・到達点を見ていく場合、政策的文章であるとともに、より現場・地方政府サイドに近いものが適切である。故に、中国におけるサービス業及びサービス・マネジメント研究の到達点を明らかにして、今後の課題を探っていく場合、地方政府の政策立案と深い関係のある文献が研究対象として適切であろう。

今回、中国サービス業研究の到達点と今後の展望を考察するに際して、鄭吉昌・夏晴共著『サービス業・サービス貿易及び地域競争力—浙江モデルの実証的研究—（浙江大学出版、2004年9月）』を検討素材とした<sup>(注3)</sup>。本書は、国家第十次五カ年計画重点図書であるとともに、浙江省社会科学技術著書出版基金助成を受け公表され、浙江省哲学社会科学計画項目研究成果でもあり、浙江省におけるサービス産業振興政策の理論的な基盤となっている。すなわち、本書は、サービス業・サービス貿易と地域経済競争力を系統的に研究した中国第一級の学術著書として位置づけられると同時に、サービス経済の視角から、浙江地区における経済発展を系統的に探求した第一級の学術著作でもある。また、本書は、浙江省哲学社会科学分野「十五（第十次五カ年計画：2001年～2005年）」の計画課題研究プロジェクトである『WTO枠組下での浙江省国際サービス貿易市場開拓発展研究（編集番号M01YJ3）』の研究成果を基礎に、その一部を編集して、公表したものである。2001年、『WTO枠組下での浙江省国際サービス貿易市場開拓発展研究』は、浙江省哲学社会科学分野・第十次五カ年計画の計画課題に加えられたもので、課題研究プロジェクトは、二年間にわたり、中国内外における大量の理論的文献（169篇）や統計資料を調査し、浙江省のサービス業・サービス貿易の現状を、全面的に考察し、その競争力を国際的・国内的に比較し、浙江省のサービス業・サービス貿易がかかえる問題を分析し、浙江省のサービス業・サービス貿易を発展させる戦略的意義と政策・施策を提起した。課題研究プロジェクトは、比較的良好な成果を挙げ、「国内に類書は少なく、内容もすでにトップクラスに属している」や「浙江省におけるサービス貿易の研究分野の空白を埋め、国内でも先進的な水準にある」と、社会的に評価されている。その後、課題研究のアイデアをさらに一步深化させ、研究内容をさらに拡充発展させ、完備させ、この基礎の上に一冊の著作にまとめたものである。

## 1. サービス経済認識の水準

世界経済の歴史が示すように、経済的な成長と構造変化の間には非常に強い関連性があり、経済発展の過程はまた経済機構変革の過程でもある。発展した経済において、サービス業への就業人口のニーズは非常に高まっている。経済発展の最も重要な現象である労働人口の移動は、まず、農業から製造業へと移転し、さらに製造業からサービス業へと移転する。2000年までに、サービス業のGDPに占める比重は、世界平均水準で62%、そのうち34カ国の低収入国の平均水準で43.5%、48カ国

の中位収入国で 52%、22 カ国の高収入国が 65%であり、サービス業で吸収している就業人口の比重は、発展した国で 60~78%、中位収入発展国で 45~62%、低収入発展国で 30~45%である<sup>(注4)</sup>。

第一次工業革命が開始された両世紀の間に、発展した国家の経済は、二度、顕著な構造変化を経験した。支配的地位を占めていた農業経済から、工業経済がさらに重要な地位になった第一段階の構造変化で、これが工業革命である。この第一回目の変化の後、農業の比重はさらに衰退し、工業の成長速度も次第に大きく緩み、停滞し、動かなくなり、サービス業が大幅に成長した。これがサービス業革命である。20 世紀の 50 年代以降、発展した国家の経済機構のサービス化が、国家拡充発展の中で、発展しはじめ、その発展は、国民経済の経済機構は「工業化」の特徴を弱め、「サービス化」の特徴を増強させた<sup>(注5)</sup>。

アメリカの経済学者 R. シェルプは、『発展におけるサービス・テクノロジーの役割』の中で、「農業や採掘業、製造業は経済発展における『レンガ (ブリック)』であり、サービス業は、それらの間を接着させることができる『モルタル』である」と指摘した<sup>(注6)</sup>。世界経済の発展の歴史を見てみると、サービス業は、農業や工業に取って代わり、国民経済における第一の大産業となることは、経済発展の必然的な傾向である。また、サービス業の発展水準は、一国あるいは地域の生産の社会化の程度や市場経済の発展水準を測る重要な指標である。今日の世界経済が、ますます、サービス経済の特徴を明確化し、発達した市場経済における生産的労働の重要な形式となり、サービス業もまたグローバルな一大産業であり、経済の持続的発展を推進させる重要な動因である。

サービス業の急速な発展に対応して、国際サービス貿易も急激に発展している。関連統計によれば、1970 年から 2000 年までの 30 年間に、国際サービス貿易の輸出額は、20 倍近く増加している。戦後の世界経済機構の調整に伴い、新技術革命の確立と産業基礎のレベルアップさせる新興産業とともに生じ、急速に発展してきた。それは、少なからず、各国の産業水準と支柱産業の戦略的代替の分野で巨大な作用を発揮し、なおかつ各国の国際収支バランスにおいても、ますます重要な緩和作用を発揮している。サービス貿易は、もはや、各国の経済発展に影響を与える重要な主要因となっただけでなく、一国の国際競争力を測る重要な指標のひとつとなった。1993 年に締結されたウルグアイラウンド多角貿易協定は、サービス貿易をグローバルな多角的貿易体制のフレーム・ワークの中に、正式に組み入れ、最終的には『サービス貿易総協定』とし、サービス貿易の自由化に向けて、多角貿易の規則と規則のフレーム・ワークを確定した。その趣旨は、次の通りである。サービス貿易における各項目の原則と多角貿易フレーム・ワークの規則を包括した項目の設定を希望し、サービス貿易拡大のための透明度と自由化の条件を明記し、貿易のパートナーと国民経済の成長・発展の手段の一つを手に入れることを促進させる。この指標は世界貿易機構の深刻な変化とサービス貿易の自由化の推進を示し、また、世界経済のサービス化を示す指標であり、世界経済社会はひとつの新しい歴史的時期であるサービス経済社会に進んだ。

サービス業とサービス貿易は国際経済の領域において、ますます、重要視され、国民経済における

その比重は不断に上昇して、製造業の発展傾向よりもはるかに超過しているのは明らかで、次第に、国民経済の効率向上を促進させ、国民総生産を成長させる主導的な力量となっている。未来の国際市場での競争は、貨物貿易を核心とするものからサービス貿易を核心とするものへと転換し、各国のサービス貿易の競争優位性は、未来の対外貿易の光景を表している。それゆえ、サービス業とサービス貿易の理論と実際の応用を進める全面的で深い研究は、十分に重要な現実的意義を有している。

浙江省は中国沿岸部の経済的に大きな省である。比較可能な価格計算によれば、1978年～2002年の間、浙江のGDPは年平均13.4%増加した。国際的な経験が示すところ、一国あるいは一地域の一人当たりの平均GDPが2000ドルを超えて以降、経済は、持続的発展スピードの時期に入っている。2002年、浙江人は平均2000ドルを、軽く突破し、経済が持続的なスピードで発展していくための、かなりの基礎と条件を備えている。

内外の経済成長の一般的法則に基づけば、今後、5～10年のスパンの長期的な期間、浙江経済は、高速度で安定した成長ダイナミズムを保持し続けることが有望視され、経済的实力はさらに増強され、一人当たりのGDPの水準はさらに早いスピードで向上する。浙江の第三産業の状況を見てみると、1977年における第二次産業と第一次産業、第三次産業の構造上の比重は、39.2 : 41.5 : 19.3であった。経済の総量的拡大と一人当たりのGDP水準の向上にともなって、第一次産業の比重が下降し続け、第二次、第三次産業の比重が向上し続ける。1998年、第二次産業の比重が54.3%となり、最高値となった。サービス業の比重は、1978年の18.6%から2002年の40%まで高まり、全体で21.4ポイント、年平均で0.9ポイント上昇した。サービス産業はすでに、浙江省の重要な産業部門となっており、サービス業は、浙江経済の発展に対して、ひとつひとつが重大な影響を及ぼしている。80年代、浙江省サービス業は、GDPの増加貢献率が23.0%となり、90年代には30.1%までに上昇し、2001年と2002年では、それぞれ39.7%、39.6%となった。他方、浙江省のサービス貿易は遅れて出発したけれども、全省の輸出入貿易総額における比重は不断に上昇している。1982年、浙江省のサービス貿易輸出入総額は0.8億ドルで、全省の輸出入総額の4.45%を占めていたが、1999年には、18.28億ドルにまで増加し、全省の輸出入総額の10%となった。

浙江省のサービス業、サービス貿易が、この20年の長きにわたり発展したにもかかわらず、発展した国家の他の地域と比べて、また、全国的な平均水準と比べても、浙江省のサービス業は明らかに低い値を示しており、とくに、コンサルタント、通信、教育、科学技術サービスなどの技術集約型・知識集約型・資本集約型サービス業は、全体のサービス業における比重において非常に低い水準にある。浙江省の国際サービス貿易の水準は、その貨物輸出における全国的な地位と比較しても懸け離れている。サービス経済理論に基づけば、サービス業は経済全体の発展に伴って変化し、サービス業の経済における比重は、経済発展水準の向上とともに上昇し、サービス業の地位も経済の発展に伴って向上し、サービス業は経済においてますます重要な作用を果たすようになる。もし、サービス業の発

展が停滞するならば、経済全体の発展や経済機構の調整も制約されるようになり、経済成長の質の向上にも影響を与える。華而誠は、未来の中国経済の発展の機会と挑戦は、サービス業にあり、サービス業は、国家の未来の繁栄にとって、戦略的な地位にあり、中国の未来の国際競争力の向上にも関連があると指摘している<sup>(注7)</sup>。程大中は、国民経済におけるサービス業の突出した役割を表現して、「接着剤」の効能と呼び、この効能が、経済成長と効率向上のアクセラレーターとなり、経済競争力向上の牽引力となり、経済変革と経済のグローバル化の促進剤となっていると評価している<sup>(注8)</sup>。サービス業のこの効能の発揮は、中国の産業構造をさらにレベルアップさせ、国民経済の持続的で、スピードがあり、健全で、調和の取れた発展を促進する。鄭吉昌は、サービス業、とりわけ、現代の知識集約型の生産的なサービス業は、企業の労働生産性と商品競争能力を向上させるキー・ファクターとなっており、さらに、企業の製品構成の差別化や製品の付加価値を決定する基本要素であると述べている。

今日、浙江経済は、スピード成長段階の現状にあるが、今後20年で、成長の安定性と調和性をさらに増強しなければならない。ただし、必ず、この種のスピードが安定した成長ダイナミズムや直線的でない上昇のパターン、一定の年限ごとに出現する波動などが明らかになるであろう。さらに、自然成長的ではない、意識的に努力して勝ち取らなければならないものである。経済のグローバル化、世界の多元化、新技術革命、国際資本の流動から、中国のWTO加盟などの多方面にわたる影響があり、中国は得がたい発展機会に直面し、また、一層、激しい競争や厳しい挑戦にも出会った。いかにして、低水準の浙江のサービス業の現状を改変するのか、産業構造の調整を加速させるのか、浙江経済の持続的で健全な発展を保持させるのか、いかにして、サービス業とサービス貿易の発展を通じて、浙江地域の競争力を向上させるのか、浙江経済と世界経済の全面的な結節を加速させるのか等、これらが、目下、解決が差し迫った問題である。

鄭吉昌・夏晴の研究成果は、人々にサービス業の重要性への認識を向上させ、サービス業の浙江経済での地位を、理論的に確立し、浙江省のサービス業とサービス貿易の国際競争力を向上させ、浙江経済の持続的で、健全で、安定的で調和の取れた発展を保持し、浙江省の地域競争力の向上に資する価値を有している。

## 2. 研究経緯と理論的背景

今日、サービス業とサービス貿易理論は、産業経済学と国際貿易経済学において世界全体を対象とする研究課題である。この論点から、対国内サービス業、サービス貿易の理論的な研究は、非常に薄弱なものである。国内では、90年代はじめから、サービス経済の理論的研究が始まった。鄭吉昌・夏晴は、国内でも比較的早い時期から、サービス経済理論の研究に着手した研究者であり、1995年から今までのここ十年間に、関連のあるサービス貿易の学術論文を発表して、一貫して、サービス経済を自己の学術的関心と研究方向としている。近年では、鄭吉昌・夏晴が、学科の主導者をしている浙江省国際経済貿易重点学科でも、サービス経済理論を学科の主要な研究方向とし、主に、国家科学

技術計画項目、浙江省科学技術計画重大課題、浙江省哲学社会科学分野計画課題、浙江省自然科学基金項目など20件以上を完成させ、関連のあるサービス業、サービス貿易研究の学術論文およそ100編を発表し、「中国サービス経済理論」学界の誕生にかなり大きな影響を与えた。2001年、鄭吉昌・夏晴は、浙江省哲学社会科学分野「第十次五カ年計画」課題の『WTO枠組下での浙江省の国際サービス貿易市場開拓発展研究』に着手し、これは、浙江省第一のサービス貿易関連の省レベルでの課題である。課題研究は二年にわたり、課題研究チームは、国内外の理論的文献や統計資料を大量に調査し、浙江省のサービス業、サービス貿易の現状を全面的に考察し、その競争力を国際的・国内的に比較し、浙江省のサービス業やサービス貿易に存在する問題を分析し、浙江省のサービス貿易を発展させる戦略的意義と政策・施策を提起した。課題の完成後、浙江省の社会科学計画事務組織の、程恵芳教授をリーダーとする専門家チームの監査を受け、「課題のフレーム・ワークは理論的であり、研究がカバーする領域は広く、研究方法も科学的で、分析や論証も深く、浙江省のサービス貿易の研究上の空白を埋め、国内でも最高の水準である」と結論付けられた。課題は、2004年第8期専門刊行の『成果要報』で報告され、浙江省の委員会や省政府の指導部や関連部門に参考として送られた。浙江省の社会科学計画所の曹華主任や儲京衛副主任は、本課題の研究に対して、最大級の関心と支持を払い、研究のさらなる深化を奨励し、専門の著作へと拡充発展させてくれた。2003年には、浙江省経済学会年会において、当該研究は浙江省経済学会研究成果一等賞を獲得した。2004年5月には、課題研究も浙江省高等学校科学技術研究成果二等賞を獲得した。

課題研究プロジェクトが終了した後も、研究は一貫して継続していた。2004年、浙江省哲学社会科学分野計画課題『浙江省における先進製造業とサービス業の共生共同機構及び活動モデル研究』、浙江省自然科学基金項目『長江デルタ地帯における先進製造業とサービス業相互作用機構の研究』、浙江省科学技術計画重大課題『地域産業の専門化を背景とするサード・パーティ・ロジスティクスの研究』、浙江省教育庁科学研究項目『浙江サービス業と都市化との相互発展の研究』に着手した。鄭吉昌・夏晴両名は、サービス業と製造業の相互関係、サービス業と都市化の関係、サービス業と産業集積の関係についてさらに深く研究し、『財貿経済』、『経済学動態』、『世界経済』、『中国ソフト科学』、『国際貿易問題』などの学術刊行物に一連の論文を発表し、そのうち10篇あまりの論文は、『中国社会科学文摘』、『人大報刊復印資料』で全文掲載され、中国の経済理論学界から広範な注目を集めた。研究の過程において、鄭吉昌・夏晴は、課題報告の内容を拡充・発展・深化させ、サービス業と社会的分業の相互作用の視角を取り入れ、サービス経済の視角から、サービス業、サービス貿易、地域競争力の三者の相互作用関係と内在するメカニズムの研究を深めた。初稿が完成した後、浙江大学の学長である羅衛東教授の推薦の下、経済専門家の評価を得て、「国家第十次五カ年計画重点図書」に選ばれ、浙江大学出版社の出版計画に加えられた。同時に、こうした高い評価より、本研究は、浙江省社会科学学術著作出版基金の援助を受けることが出来た。

鄭吉昌・夏晴によれば、人類社会は工業経済からサービス経済へと転換しており、経済数値や雇用から見ても、また、国際サービス貿易の比較から見ても、サービス業とサービス貿易の地位と戦略的意義はますます高まってきている。早くも1968年に、アメリカの経済学者V.R.フィクス(V.R.Fuchs)は、彼の代表的著作『サービス経済』において次のように宣言している<sup>(注9)</sup>。西側諸国の中で、アメリカは、世界で最初に「サービス経済」社会に突入するであろうし、工業経済からサービス経済へと向かうこの種の転換は、イギリスから始まり西側諸国の多くへと拡大した農業経済から工業経済への転換と同様に、「革命的な」性質を有している。アメリカの社会学者のダニエル・ベル(Daniel Bell)は、フィクスの理論を発展させ、「ポスト工業社会」理論を作り、ポスト工業社会において、生産と消費のすべては、もはや物質的製品を主とせず、サービスが主となっていると述べている<sup>(注10)</sup>。サービス業とサービス貿易はますます人々から高度に重要視される場所となり、国民経済におけるその比重は不断に上昇しており、製造業の発展傾向を超えて、ますます発展を明らかにし、また、それ自体、次第に、国民経済の効率向上と国民総生産成長の主導的な力量となってきている。未来の国際市場の競争は、貨物貿易を核心とするものから、サービス貿易を核心とするものへと変化する。ゆえに、サービス業は、国家の未来の繁栄にとって、戦略的な地位にある。

鄭吉昌・夏晴の研究は、先の述べたように、グローバルなサービス経済を背景とし、国際貿易理論と実践を総合し、省地域のサービス業、サービス貿易への全面的考察を通じて、関連あるサービス経済の最新の成果を完成させたものである。鄭吉昌・夏晴は、サービス業と社会的分業の相互関係という独自の視角から捉え、分業の進展が少なからず労働の個人的な分業と専門化の過程であり、また、産業的な分業と専門化の過程でもあることを提起した。静的に見ると、サービス業の発展は社会的分業の結果であり、これは一国の分業の発展水準を表現している。動的に見ると、サービス業の発展もまた、分業の深化の前提であり、条件でもある。サービス業の発展と分業の進展は互いに因果関係にあり、相互促進的な関係である。経済発展に従い、市場のキャパシティが不断に拡大し、分業と専門化、次いで、さらなる専門化が進み、この傾向の下、経済効率は、ますます、生産活動の間に確立した相互関係と同じでない関係が作られ、生産活動それ自体の生産効率状況より大きい場合も、少なくない。それゆえに、工業経済におけるサービスの独自の役割は、その他の部門の成長を促進するプロセス産業であり、経済的な「接着剤」である<sup>(注11)</sup>。こうして、サービス業(サービス貿易)と地域競争力の相互関係の理論体系を構築した。

鄭吉昌・夏晴は、このような一種独特の視角を基礎として、浙江省のサービス業とサービス貿易の構造的特徴及びその国際競争力を系統的に考察した。浙江省のサービス業の発展の歴史的プロセスを回顧し、産業構造、事業構造、雇用構造、投資構造、空間構造などの5つの方面から、浙江省のサービス業発展の構造的特徴を探求し、浙江サービス業の発展の動因と戦略的意義を分析した。また、浙江のサービス貿易の競争力の現状を全面的に考察し、浙江サービス貿易の比較優位と競争優位の構築の必要性を論じた。浙江の特色あるサービス業及びサービス貿易の開発発展の道筋を提起し、浙江地

域の競争力の向上を指し示すひとつの新しい路線とした。また、浙江地域の経済的特徴を総合し、サービス業と製造業、サービス業と生産集積、サービス業と都市化、サービス業と民間経営経済との相互関係と関連機構の進展を深く探求した。比較研究の基礎の上に、サービス業とサービス貿易を発展させ、浙江の産業構造調整と強化を加速し、浙江経済を持続的で健全な発展と地域の競争力を向上させる戦略的意義と政策ビジョンを提起した。

### 3. 研究内容の概要

鄭吉昌・夏晴は、浙江省におけるサービス業の現状を詳細に評価、分析することを重視し、浙江省のサービス業発展の機構的特徴、発展の動因と戦略的意義を探求し、この基礎の上に、浙江省のサービス業・サービス貿易の比較優位と競争優位の所在を研究し、研究は、浙江省のサービス業・サービス貿易発展の主要要因に影響を与え、浙江省のサービス業・サービス貿易の発展を加速化させる政策・施策を探求した。

鄭吉昌・夏晴共著『サービス業・サービス貿易及び地域競争力—浙江モデルの実証的研究—（浙江大學出版、2004年9月）』は、全部で13章から構成される。まず、第1章は、サービス経済の概論の部分である。サービス労働の含意から、使用価値と価値の論争から出発し、サービスの特質、分類及び効能について論述した。サービス経済理論の展開過程を概括し、西欧経済学学界におけるサービス経済理論の進展を総括し、サービス業と経済発展段階、サービス業と経済構造調整、サービス業と就業などのいくつかの分野を包括した。本章の最後でも、中国国民経済の発展におけるサービス業の戦略的な地位や中国サービス業発展の現状や背景、サービス業発展の動因等の内容を論述している。

第2章は、サービス業の発展と分業の進行である。本章では、まず、はじめに、分業理論を総括し、サービス業の発展と分業との間で生じる相互の影響と、相互促進的な良好な循環関係を合わせ論述し、サービス業の発展がすでに社会的な分業の結果であり、また、社会的分業の発展と深化が前提であり条件であることを論じている。最後に、現代のサービス業、すなわち、知識技術集約型サービス業と社会的分業の深化の関係を論じている。

第3章は、サービス貿易理論である。本章は、国内外にある代表的なサービス貿易理論の進行を概括し、主に、サービス貿易における比較優位理論と競争優位理論のサーベイである。サービス貿易理論の探求において、比較優位から出発し、競争優位に着眼した分析を行い、一般的な商品と比べて突出したダイナミックな特性を提起した。最後に、サービス貿易における規模の経済と不完全競争理論にも探求した。

第4章は、サービス貿易が発展したグローバルな背景と国際的な経験である。本章は、グローバルなサービス貿易の規模拡大、成長スピードの加速化、構造に生じた変化など発展の特質から、世界のサービス貿易の発展傾向を導き出した。中国のサービス貿易の発展において、簡単な回顧と総説を述



べた。関連して、サービス貿易の国際的経験の分野では、アメリカやオーストラリア、韓国、インドネシアの事例から、これらの国家のサービス貿易が発展している現状や政策を紹介した。

第5章は、浙江省のサービス業の構造的特徴と動因分析である。本章は、浙江省のサービス業の発展の歴史過程を回顧し、とりわけ、改革開放以後の浙江省のサービス業発展を大量の統計に基づき分析し、浙江省のサービス業の発展における構造的特徴と抱えている問題を導き出した。第三次産業の「二、三、一」構造がすでに確立されたが、サービス業の発展は依然として停滞している。サービス業内部のビジネスのレベルが改変されたが、新興のサービス業の発展が緩慢である。サービス業は、労働力を雇用吸収する主要なチャネルであるが、依然として、その比重は低いまま偏っている。サービス業に対する投資力は大きくなってきているが、投資ビジネスとの結びつきが合理的ではない。と同時に、地域各局が発展を争ってきているが、空間配置が依然として合理的ではない。最後に、浙江省のサービス業発展の動因を探求している。

第6章は、浙江省におけるサービス業発展の産業的連関と戦略的意義である。浙江省のサービス業で最も重要な産業連関は製造業であり、浙江省は製造業大省で、浙江省政府は、浙江省建設のための先進的製造業基地のスローガンを提起した。本章は、サービス業と製造業の連関に関する理論研究から出発し、浙江省におけるサービス業と製造業の協働的発展の必要性を指摘する。産業クラスターは、浙江経済の一大特徴でもあり、この領域から、浙江産業クラスターの発展とサービス業との間の関連について論述し、浙江産業クラスターの発展がサービス業を支援するに不可欠であることを指摘した。最後に、サービス経済の視点から、サービス業を発展させることの、浙江の経済成長や「ゆとり社会」の全面的建設、工業化発展に対する重大な戦略的意義を論じた。

第7章は、浙江のサービス業発展の国内比較と空間的連関である。本章では、まず、はじめに、浙江省のサービス業を国内比較し、浙江省におけるサービス業の比重低いことを、全国平均と比べて、明らかにし、その原因は多方面に及び、例えば、市場化の程度、産業化の過程の緩慢さ、国際化水準の低さ、都市化の停滞などである。その後、浙江省におけるサービス業を、長江デルタ地帯と比較して、以下の結論を得た。浙江省の第三次産業の産業数値の構造は、江蘇と同等の水準で、上海よりも低い。それゆえに、浙江省のサービス業は、長江デルタに浸透する上海の放射線状のハブ効果を、いかに利用するのかにある。最後に論じるものは、サービス業と都市化の相互発展関係で、浙江の都市化建設に応じて、産業構造の水準がレベルアップした。

第8章は、浙江のサービス貿易の国際競争力である。サービス業における対外開放の度合いは直接サービス貿易の発展に影響し、また、サービス貿易の発展はサービス業の発展に対しても促進作用を引き起こす。いくつかの分析に基づいて、浙江省のサービス業の国際化の程度の低さ、外資を利用する比重の低さが明らかになった。本章でも、浙江のサービス貿易の要素を分析し、浙江のサービス貿易における比較優位と競争優位の構築の必要性を論じた。本章では、定性分析と定量分析を結合させた方法を採用し、一定の技術評価指標を用い、浙江のサービス貿易における競争力の現状を全面的に

考察し、「歩みだすのは遅いが、発展のスピードは比較的速い、だが、全体として、水準は低く、国際競争力は強くない」と結論付けた。

第9章は、サービス業・サービス貿易の発展と浙江地域の競争力の向上である。本章では、まず、浙江省のサービス業発展の全体目標、ビジョン、基本路線を提起し、浙江省のサービス業を発展させる政策を探求し、管理及び法律体系を支持した。浙江経済の民間経営主導の特徴と結び付けて、本章は、民間資本を利用して、浙江サービス地域競争力を構築する途や施策を探求した。最後に、浙江省におけるサービス貿易の国際競争力向上についていくつかの政策提案を提起した。

第10章から第13章までは、浙江省におけるサービス業の産業分析、とりわけ、浙江省の経済発展に深く係わり重要な4つのサービス産業（観光業、金融保険業、物流業、コンベンション・ビジネス）を深く緻密に調査分析し、それぞれの産業の現状や基本的な特徴、問題の所在、社会的影響、発展政策などいくつかの分野にわたり論証している。

#### 4. 研究の特長と全体構想

鄭吉昌・夏晴の研究の革新性は、以下のいくつかの分野に主要に現れている。

第一に、サービス業と社会的分業相互のダイナミズムという、独自の視角から、分業の進行が、個人労働の分業化と専門化を進めるだけでなく、産業的分業と専門化の過程とすることにある。静態的に見ると、サービス業の発展は社会的分業の結果で、一国の分業の発展水準を表現している。動態的にみると、サービス業の発展はまた分業の深化の前提であり、条件でもある。サービス業発展と分業の進展は、互いに因果関係があり、相互促進的な関係である。経済発展に伴い、市場のキャパシティは不断に拡大し、分業と専門化が、次いで深化する。こうした傾向の下、経済効率はますます、生産活動の間にある相互関係の程度とは同じではなくなり、また、生産活動本来の生産率の状況よりも、得ている場合も少なくない。ゆえに、分業経済におけるサービスの独特の役割は、他の部門の成長を促進させるプロセス産業であり、経済的な「接着剤」である。こうして、サービス業（サービス貿易）と地域競争力との相互関係理論体系を打ち立てた。

第二に、浙江省のサービス業の機構的特徴や主要な問題の基礎を、全体システムとして分析し、浙江のサービス業の発展水準を全国や長江デルタ地帯の他の諸都市と比較して、サービス経済理論の視角から、サービス業発展は、浙江経済の持続的で健全で、安定的で調和の取れた発展への意義と作用を分析し、浙江サービス経済研究の空白を埋めた。

第三に、サービス業と製造業の共生・協同関係を分析し、浙江省の先進的な製造基地の建設に必須で関連深いサービス業を支援し、産業の共同発展とシステム能力を形成し、経済発展のプロセスにおける競争ポテンシャルを保持する。

第四に、経済発展、産業構造の変化と都市化との関連から、サービス経済時代における都市化が、

なによりも先進的な生産要素であり、現代サービス業は都市大衆向けのものである。サービス業は、都市化の発展とともに、質的な進歩を実現する加速装置である。都市化は、サービス業発展とともに、産業機構のレベルアップを実現する推進装置である。同時に、浙江省におけるサービス業と都市化の相互発展の対策ビジョンを提起する。

第五に、浙江省のサービス貿易の国際競争力の現状を、定量分析し、浙江省のサービス貿易の比較優位と競争優位を探求し、浙江のサービス業の国際化を探求し、サービス貿易の道筋を開拓発展させ、さらに国際分業に参加し、浙江の国際経済での地位を高めるために、重要な理論的意義と実践的意義を十全に兼ね備えている。

鄭吉昌・夏晴は、サービス業・サービス貿易と浙江地域の国際競争力の研究において、サービス、サービス業、サービス貿易という最も基本的な概念から出発し、この3つの概念と、経済成長及び競争力の向上との関連を統合するためのサービス経済理論である。内外の代表的な現代サービス経済理論の論述を通じて、サービス業と国民経済の成長に内在するメカニズムを示した。

また、鄭吉昌・夏晴は、以下の3つの分野の理論的論証と定性的研究を重く取り上げた。すなわち、サービス業発展と社会的分業の進行の理論、サービス産業理論、サービス貿易理論である。これは、次の理由による。第一に、サービス業発展と分業の進展の理論は相互に因果関係にあり、相互促進的であり、サービス業が発達した地域では、分業と専門化による経済性を十分に享受でき、労働生産性と国際競争力を向上させている。第二に、サービス業は、その他の部門の成長を促進させるプロセス産業であり、経済の接着剤であり、商品生産を推進する力を刺激し、産業集積と工業化、経済成長を促進する。第三に、経済のグローバル化の傾向が増強するのに伴って、サービス業の国際化は、経済のグローバル化の核心となっている。サービス貿易は国際貿易の地位を改善させ、国際経済競争力を向上させ、外貨収入を増加させるだけでなく、社会的な雇用の面でも拡大させ、伝統的貨物貿易とは根本的に異なる、特殊な効能と重要な地位を有している。

理論的論証と定性的研究の基礎の上に、鄭吉昌・夏晴は、浙江省の実際の状況の展開に対して定量的研究を行った。サービス業の全体的構造的特質の探求から、サービス業における重点事業を分析し、サービス業の対外開放の度合いの分析から、サービス貿易の競争力水準を計り、大量の数値に基づく統計分析を通じて、浙江省のサービス業、サービス貿易の発展における問題の所在を抽出し、サービス業、サービス貿易の発展の遅れが浙江地区の競争力向上に与える制度的影響を分析し、本書の最後では、できるだけ具体的な方向性のある施策を提起した。

当然、浙江省のサービス業及びサービス貿易の発展は、サービス業のグローバル・スタンダードやサービス貿易の発展という大きな背景と不可分である。国際経済の一体化の程度が加速して進むにつれて、浙江の経済成長は、国際市場への依存度をますます大きくし、国際環境の変化は、浙江のサービス業、サービス貿易の開拓発展への影響を、ますます明確にしている。鄭吉昌・夏晴の研究は、すでに、経済のグローバル化、新技術革命、中国のWTO加盟等の国内外の環境要因をも視野に入れ

た研究枠組みであり、これらの諸要因が浙江省におけるサービス業やサービス貿易の現状に与える影響を分析し、浙江省におけるサービス業、サービス貿易の未来の発展傾向を予測している。

## むすびにかえて

以上、鄭吉昌・夏晴共著『サービス業・サービス貿易及び地域競争力』への検討を中心に、中国のサービス業・サービス・マネジメント研究の到達点について見てきた。今後の課題としては、次の4点を提起する。

まず、第一に、経済のグローバル化とIT化の進行とともに生じるサービス産業の性質の変化を踏まえた上での、新しい発展の方向性と政策枠組みの探求である。従来、サービス産業は、国内需要に依存した、非常にドメスティクな産業であり、その競争力も限定されたものであった<sup>(注12)</sup>。しかし、経済のグローバル化とTI化とともに、従来の国民経済的枠組みが変容し、国内取引を主体としてきたサービス産業も、今日、国際競争の対象となり、「マルチ・ドメスティク・プレイヤー」から「グローバル・プレイヤー」になりつつある<sup>(注13)</sup>。したがって、単に、地域の競争力の強化・向上へのサービス産業の貢献度だけでなく、サービス産業それ自体の国際競争力の育成強化が必要となる。

第二に、国際競争力の自立した担い手のひとつへと変貌しつつあるサービス産業と、地域振興への波及効果との関連、とりわけ、国際競争の視点から、観光産業が与える広範な分野の産業との密接な関連だけを捉えるのではなく、国の社会基盤や文化資源、「生活の質」などの社会的要因との総合的な関係についても、今後、探求を深めていく必要がある<sup>(注14)</sup>。

第三に、経済のサービス化にともない、産業構造、雇用構造、消費構造に大きな変化が生じているが、なかでも、大きな影響を与えている重要な要因のひとつとして、生産性の問題があげられる。とりわけ、労働集約型産業であるサービス業における生産性の向上には、従業員満足と顧客満足が密接な関係にあり、従業員満足を実現するサービス供給システムのあり方を探求する必要がある<sup>(注15)</sup>。

最後に、今後の研究の展開としては、サービス業の産業構造の研究から、より具体的・実践的な領域に立ち入るサービス・マーケティング・マネジメントの研究へと深化・発展していく必要があると考える<sup>(注16)</sup>。

## [ 注 ]

(注1) 1992年6月の「第三次産業の発展の加速に関する中国共産党中央委員会・中華人民共和国国務院決定」以来、中国政府は、サービス産業の発展に、政策的努力を傾斜している。また、1992年の中国共産党第14期全国代表大会以降、確立・展開した「社会主義市場経済」という規定とともに、中央政府の役割の重要性についての論点は、徐崇温：《堅持社会主義制度与市場経済的結合》、《中国特色社会主義研究》、1999年第

4期や董德剛：《社会主義市場經濟理論的重大突破和發展》，《中共中央党校學報》，2000年第4期，陳文通：《我國社会主義初級段階几个重大經濟理論問題的探求》，《中共中央學校學報》，2000年第3期などを参照されたい。

(注2) マルクス＝レーニン主義は、自己の政策や方針に対して、その科学的・学問的根拠性を強く求めている。例えば、『毛沢東語録』外文出版社の「二十二 思想方法と工作方法」や「二十三 調査方法」などや毛沢東著『実践論』、同著『矛盾論』を参照されたい。

(注3) 本稿は、鄭吉昌・夏晴共著《服務業、服務貿易与区域競爭力》浙江省大学出版社、2004年を検討素材としている。鄭吉昌氏は、京都創成大学と提携関係にある浙江樹人大学訪問団の一員として、2005年6月28日、京都府福知山市を訪問され、わずかな間であったが、学術的な面でも交流することが出来た。今回の研究は、その成果を踏まえている。

(注4) 世界のサービス経済化の動向についての位置づけは、浙江省發展計画委員会：《新段階、新形勢、新發展》，中国經濟出版，2004年や中共浙江省委政策研究室課題組：《浙江發展新段階的趨勢》，《浙江經濟》，2004年第3期などで行われている。

(注5) M.A. Colin Clack : *The Conditions of Economic Progress* , Macmillian & Co.ltd.,1951.p396.

(注6) Shelp & Riddle : *The Role of Service technology in Development*, Praeger Publishers,1984.p.268.

(注7) 華而誠の議論に関しては、華而誠：《論服務業在國民經濟發展中的戰略地位》，《經濟研究》，2001年第12期や華而誠・李善同：《21世紀初的中国服務業》，經濟科学出版社，2002年などがあげられる。

(注8) 程大中の議論に関しては、程大中：《中国服務業增長的特点、原因及影响》，《中国社会科学》，2004年第2期や程大中：《中国服務業的增長与技術進步》，《世界經濟》，2003年第7期，程大中：《中国服務貿易顯性比較優勢的定量分析》，《外貿經濟、國際貿易》，2003年第7期，程大中：《論服務業在國民經濟中“粘合剂”作用》，《財貿經濟》，2004年第2期などを参照されたい。

(注9) V.R.Fuchs : *The Service Economy* , Columbia University Press,1969.

(注10) Daniel Bell : *The Coming of Post-Industry society* , Heinermann Educational Book Ltd . , 1974.

(注11) こうした國民經濟におけるサービス業の位置づけについては、程大中：《論服務業在國民經濟中“粘合剂”作用》，《財貿經濟》，2004年第2期、華而誠：《論服務業在國民經濟發展中的戰略地位》，《經濟研究》，2001年第12期などを参照。

(注12) こうしたサービス業の位置づけに関する代表的な議論としては、M.ポーター編『国の競争優位』（ダイヤモンド社、1992年）での議論があげられる。ただし、ポーターは、製造業とサービス産業の相互関係の深化を通じた産業クラスターの發展とイノベーションの促進についても論じており、その意味では、國際競争力への間接的な効果・役割を認めている。

(注13) この点に関しては、A.Deardorf. *Comparative Advantage and International Trade and investment in Services*. In R.B.M. Stern(ed). *Trade and Investment in Services: Canada/US Perspectives*, Tronto Ontario Economic Council,1985. や K.Trcker, M.Sundberg : *International Trade in Services*.Rortledge.1988.などを参照。

(注 14) 日本でも、2003年3月「観光立国懇談会」が発足し、2003年7月「観光立国行動計画」や2005年11月「観光立国推進戦略会議」にて55項目の提言なされて以来、観光分野において、総合的な地域振興政策とマーケティング視点の融合化が進んできている。典型的なものとしては、日本経済団体連合会『国際観光立国に関する報告書』2005年などがある。

(注 15) この点に関しては、「ポスト工業社会のサービス・モデル」として位置づけられている。F.F.Reichheld, W.E.Sasser, Jr., "Zero Defections :Quality comes to Services" Harvard Business Review, Sep-oct., 1990. や D.Ulrich , "Employee and Customer Attachment : Synergies for Competitive Advantage," Human Resources Planning, Vol.14, No.3. 1991. などを参照。

(注 16) この課題に関して、鄭吉昌氏は、すでに十分意識されており、標準的なサービス・マーケティング論のテキストとして、鄭吉昌編《服務市場營銷》中国对外経済出版社(2003年)を編集している。鄭吉昌氏の研究と教育の成果が、浙江樹人大学・浙江省国際経済貿易重点学科建設計画にて結実しており、今後、さらなる発展や新しい展開が期待される。